

今週の為替相場見通し(2025年12月15日)

総括表	(円)	先週の値動き			今週の予想レンジ	
		注	レンジ	終値		
米ドル	(円)		154.91 ~ 156.95	155.85	153.00 ~ 158.00	
ユーロ (1ユーロ=)	(ドル) (円)		1.1616 ~ 1.1762 180.50 ~ 183.15	1.1741 182.95	1.1700 ~ 1.1850 182.00 ~ 184.00	
英ポンド (1英ポンド=)	(ドル) (円)	*	1.3289 ~ 1.3437 206.60 ~ 208.95	1.3381 208.36	1.3000 ~ 1.3500 202.00 ~ 212.00	
豪ドル (1豪ドル=)	(ドル) (円)	*	0.6610 ~ 0.6686 102.91 ~ 104.40	0.6654 103.66	0.6550 ~ 0.6750 102.00 ~ 104.50	

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

国際為替部 為替営業第一チーム 大野 梨紗

(1)今週の予想レンジ: 153.00 ~ 158.00 円

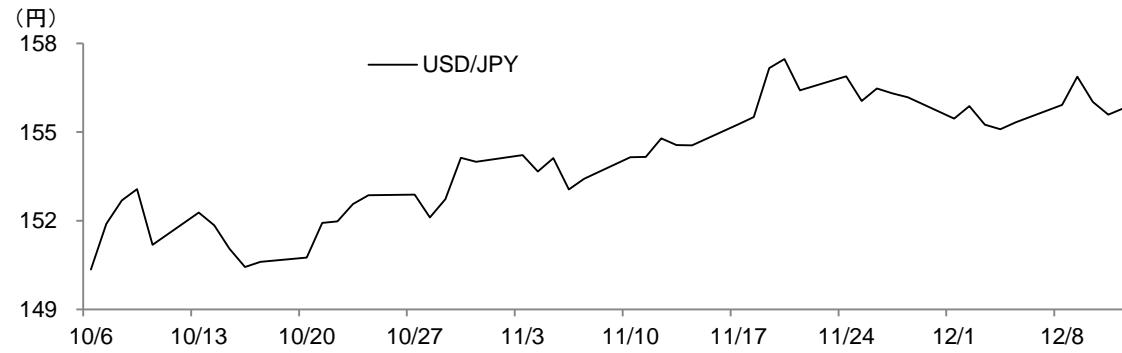
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円は、上に向って来いの展開。週初8日、155.31円でオープンしたドル/円は日銀利上げ観測の高まりを受け一時週安値となる154.91円まで下落。海外時間は、米金利上昇と共にドル買い優勢となり156円手前まで続伸した。9日、ドル/円は156円ちょうどを挟んでの推移。海外時間は、植田日銀総裁によるタカ派的な発言を受けた円買いもあったが、米9月および10月JOLTS求人件数の強い結果を受けた米金利上昇を支えに、一時週高値となる156.95円まで上昇。10日、ドル/円は様子見ムードが強く、156円台後半で方向感なく推移。海外時間は、FOMCが予想通り▲25bpの利下げを決定。声明文やパウエルFRB議長会見が市場予想ほどタカ派的ではなかったことが材料視され、米金利の低下幅拡大とともに156円を割り込んだ。11日、ドル/円は156円台を回復。海外時間には、米新規失業保険申請件数の軟調な結果を受け一時155円を割り込むも、米金利反発を支えに155円台半ばに値を戻した。12日、ドル/円は引き続き155円台半ばを中心に推移。海外時間には156円台に緩やかに上昇も、翌週のイベントを控え様子見ムードが強く、155.85円で越週した。

今週のドル/円は上値の重い展開を予想。今週は18日(木)～19日(金)にかけて日銀金融政策決定会合が開催される。市場のおよそ9割が政策金利+0.25%の引き上げを既に織り込んでいる状況下、注目が集まるのは19日(金)の植田日銀総裁の記者会見内容となろう。特に、ターミナルレートとされる中立金利の水準と、今後の利上げペースの見通しについての発言に注目したい。日銀が想定する中立金利についてはこれまで1.0～2.5%の幅と示されてきたが、次回会見でこの中立金利の考え方について明らかにされる見通しである。この水準が市場予想対比高いものとなれば、今後も利上げ継続との受け止めからドル/円は円高方向に反応しやすいだろう。さらに、米国の関税政策による企業収益への影響度合いや、日中関係の悪化など、景気先行きへの不透明感が燻っている中でのタカ派ニュアンスを強く発信する可能性には要警戒。一方、米国では、先週開催のFOMCにて市場予想通り▲25bpの利下げが決定されたが、声明文やパウエルFRB議長会見が市場予想ほどタカ派ではなかったことから積極的なドル買いにもなりづらい地合いとなっている。このような状況下、今週は本邦では15日(月)10～12月期日銀短観、米国では16日(火)米11月雇用統計、18日(木)米11月消費者物価指数の発表も予定されている。米国の経済指標の結果に左右される相場展開となりやすいが、日米金利差縮小が意識されることで、ドル/円の上値は限定的とみる。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/8～12/12)の値動き: 安値 154.91 円 高値 156.95 円 終値 155.85 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

国際為替部 グローバルFIチーム 桃田 慎

(1)今週の予想レンジ: 1.1700 ~ 1.1850 182.00 ~ 184.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

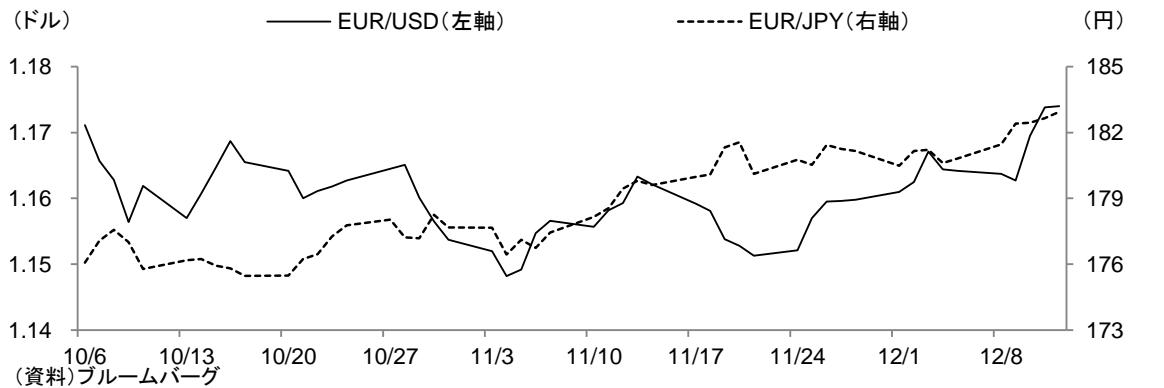
先週のユーロ/ドル相場は週後半のFOMCや米新規失業保険申請件数といった米国側の材料を主要な要因として上昇する展開となった。週初8日は1.1641からスタート。シュナーベル ECB 専務理事の「次の動きが利上げという見方に違和感はない」との発言が伝わると 1.1672 まで上昇したが、NY時間は米金利上昇から反落した。9日は1.16台前半で推移する中、NY時間の米9月及び10月JOLTS求人件数の結果を受けた米金利上昇から1.1616まで下落。10日は市場で想定されていたよりもタカ派的ではなかったFOMCの結果を受け、米金利低下とともに1.1700まで上昇。11日も前日からの流れで続伸する中で、米新規失業保険申請件数の悪化からドル安となり、週高値である1.1762まで上昇した。12日は前日のドル売りが一服し小幅なレンジで推移し、1.1741にてクローズした。

今週のユーロ/ドル相場は堅調な推移を予想。経済指標やイベントは16日(火)の米11月雇用統計、18日(木)の米11月消費者物価指数、ECB政策理事会に注目したい。先週のFOMCでは想定よりもハト派な姿勢が示され、FF金利先物では2026年も2回の利下げ期待が維持されている。一方で、ECBは3会合連続で政策金利の据え置きを決定した10月理事会の議事要旨から利下げを急いでいない姿勢が示されている。一部の当局者からは利下げサイクル終了の見方も示されている状況であることに加え、金利先物市場でも2026年の利下げ再開はほぼ織り込まれていない。こういった金融政策の方向性の違いから、ユーロ高ドル安圧力がかかりやすい地合いが継続するものと考える。今週発表される米11月雇用統計や米11月消費者物価指数において、市場予想を下回る弱い雇用や穏健な物価上昇が示されると、こういった圧力は一層強まるだろう。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/8~12/12)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1616	高値 1.1762	終値 1.1741
(対円) 安値 180.50	高値 183.15	終値 182.95



欧州資金部 天沼 幹

3. 英ポンド

(1)今週の予想レンジ: 1.3000 ~ 1.3500 202.00 ~ 212.00 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週1週間の英ポンド相場は、対ドルで上昇した。週前半はFOMCを前に様子見ムードで小幅推移。10日のFOMCにて市場予想通り▲25bpの利下げが発表されるとドル売りで反応し、英ポンドは上昇した。金利見通しやパウエルFRB議長の会見においても市場が警戒したほどのタカ派的なスタンスは示されず、全般的にサプライズのない内容となり、一層のドル安が進んだ。11日、米新規失業保険申請件数が予想を上回ったことが嫌気され、米金利の低下に伴ったドル売りが先行。12日は週末に向けてポジション調整となったか上昇が巻き戻された。

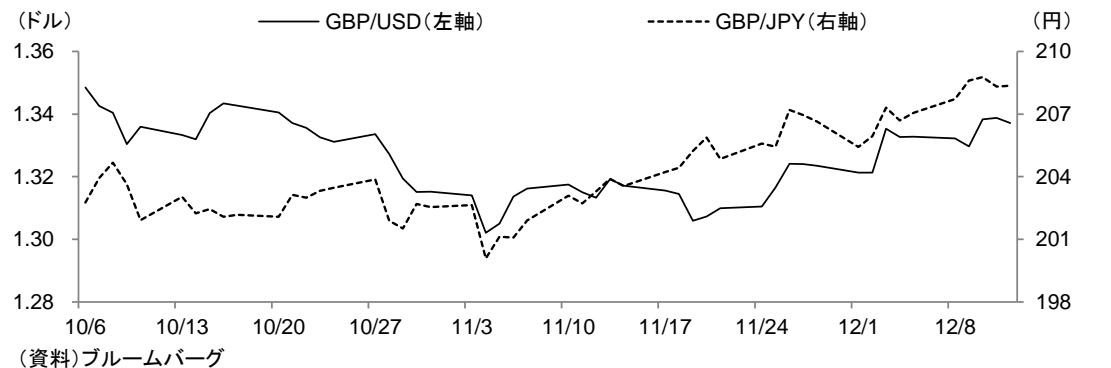
今週の英ポンド相場は、上値重い展開を想定。英国サイドでは16日(火)に英10月雇用統計、英12月PMI速報値、17日(水)に英11月CPI、そして18日(木)にBOE政策金利発表が予定されている。直近の内容としては、PMIでは確報値で上方修正されるなど底堅く、CPIでは未だ高水準ではあるもののディスインフレの兆候が認められている。前回BOE政策金利発表では金利据え置きとなったものの5-4とハト派的な票割れで、現在のOSI市場では▲25bpの利下げがほぼ織り込まれている。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/8~12/12)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3289 高値 1.3437 終値 1.3381

(対円) 安値 206.60 高値 208.95 終値 208.36



4. 豪ドル

国際為替部 為替デリバティブチーム 部坂 洋太朗

(1)今週の予想レンジ: 0.6550 ~ 0.6750

102.00 ~ 104.50 円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは小幅上昇となった。週初8日の豪ドルは0.6634でオープンも各国中銀イベントを控えて様子見ムードが高まる中、方向感のない値動きとなった。9日、RBAは事前予想通り政策金利の据え置きを決定したが、ブロックRBA総裁の記者会見によって次回アクションが利下げではなく利上げの可能性が高いことや足許のインフレ水準に警戒しているとのタカ派発言を受けて、豪ドルは上昇となつた。10日、米国時間のFOMCにて事前予想通り政策金利の引き下げが発表されたが短期国債購入開始のサプライズを受けてドル売りの流れから豪ドルは週高値の0.6686まで一時上昇となつた。11日、発表された豪11月雇用統計にて、雇用者数が事前予想から一転して減少結果となつたことを受けて豪ドルは前日の上昇を吐き出して0.6627まで下落。その後は値を戻して0.6665で引け。12日、特段の材料はなく豪ドルは方向感のない値動きとなり0.6654で越週となつた。

今週の豪ドルは軟調な展開を予想。今週は米11月雇用統計および米11月消費者物価指数といった重要指標の発表が予定されているが、FRBのスタンスとして利下げ局面は一巡しており今後は発表される経済データを精査していく段階であることから、経済指標の結果によって上下あるものの目先のFRBの金融政策のスタンスに大きく変化は見られないものと予想する。一方で、先週開催されたRBA会合の内容がタカ派的だったことを受けて豪ドルは約3か月振りの高値水準まで上昇しているが、先週発表された豪雇用統計が大きく下振れしていることから来年における利上げ次期について本格的に議論するには時期尚早であり、目先は高値警戒感から豪ドルは上値が重い展開となることを予想する。今週発表される経済指標としては16日(火)に豪12月ウエストパック消費者信頼感の発表を控えている。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/8~12/12)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6610

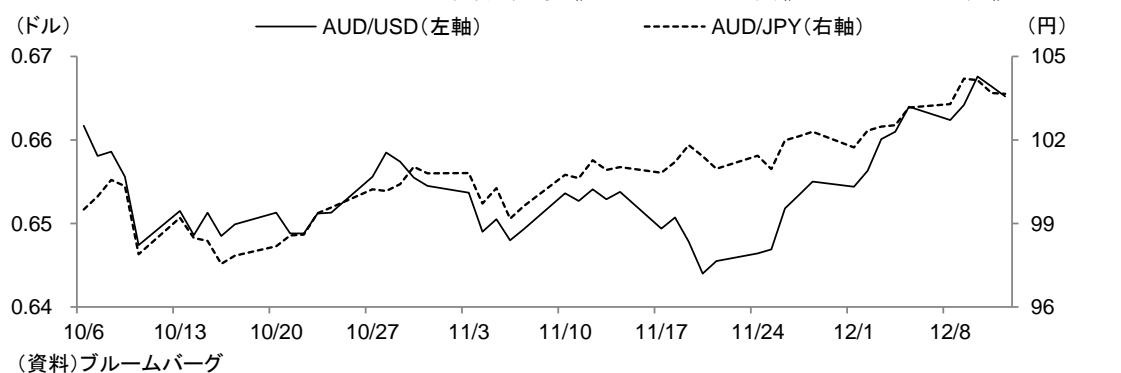
高値 0.6686

終値 0.6654

(対円) 安値 102.91

高値 104.40

終値 103.66



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。